

令和元年度病害虫発生予察特殊報第3号

令和元年12月25日
愛 知 県

- 1 病害虫名：ネギハモグリバエ 別系統 *Liriomyza chinensis* Kato
- 2 発生作物：ネギ
- 3 発生地域：尾張地域
- 4 発生確認の経過

令和元年11月、尾張地域のネギ栽培圃場において、ネギの葉がネギハモグリバエに著しく摂食され、白化する被害を確認した。従来の被害の様相とは異なり、他県で発生が認められているネギハモグリバエ別系統の食害と類似していたため、農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センターに同定を依頼した結果、遺伝子解析によって従来の系統（以下、A系統と略記）とは異なる別系統（以下、B系統と略記）であることが判明した。

- 5 国内における発生状況

B系統の発生は、平成28年頃から京都府で、その後、茨城県、富山県、千葉県、長野県、埼玉県、新潟県、栃木県、三重県、滋賀県及び大阪府で確認され、特殊報が発表されている。

- 6 本種の形態及び特徴

A系統とB系統の形態による識別は困難である。両系統とも成虫の体長は約2mmであり、胸部と腹部が黒く、その他の部分は淡黄色である（図1）。幼虫は、うじ虫状で、成長すると約4mmに達する。蛹は、体長約3mmの褐色、俵状である。両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込み葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。

- 7 被害

B系統はA系統と比較して、1葉あたりの幼虫数が多い傾向がある。初期の食害痕は、A系統と同様に不規則な白線状であるが、進展すると近接した食害痕同士が癒合し、葉全体が白化したようになる（図2）。葉肉は食い尽くされ、表皮が浮いた状態になり表皮を剥離すると、多数の幼虫が確認される。

- 8 防除対策

- (1) 発生を認めたら、ネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉及び収穫残さは本虫の発生源となるので、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋める等適切に処分する。

- 9 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085 内線471



図1 成虫 体長は約2mm程度



図2 白化した被害葉



図3 幼虫が多数寄生している様子



図4 多発ほ場